

Test Matches 2015 JPN v GBR:London(GBR)

大会名	Test Matches 2015	日付	2015/4/27
場所	London(GBR)	天候	晴れ
試合	第2戦	通算結果	日本2敗

Country	RESULT	Country																
JPN(日本)	1	5 GBR(グレートブリテン)																
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="width: 10%;">1Q</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">0</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">-</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>2Q</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>3Q</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>4Q</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </table>			1Q	0	-	0	2Q	0	-	2	3Q	0	-	0	4Q	1	-	3
1Q	0	-	0															
2Q	0	-	2															
3Q	0	-	0															
4Q	1	-	3															

Start	No.	Name	備考
	1	大家涼子	GK
8	3	真鍋恵子	
✓	5	中川未由希	C
✓	7	大塚志穂	
✓	8	林なぎさ	
✓	9	中島史恵	
6	10	加藤彰子	
6	11	柴田あかね	
✓	12	阪口真紀	
✓	13	及川葉	
6	15	西村綾加	
✓	16	永井友理	
✓	17	永井葉月	
✓	18	浅野祥代	GK
✓	19	小野真由美	
7	20	真野由佳梨	
✓	21	山本由佳理	
6	22	湯田葉月	
監督		永井祐司	
UMPIRE		SACRE Lelia(CAN)	

Start	No.	Name	備考
✓	1	HINCH Maddie	GK
9	3	MAGUIRE Emily	
✓	4	UNSWORTH Laura	
6	6	MACLEOD Hannah	
✓	7	TWIGG Georgie	
6	8	RICHARDSON-WALSH Helen	
6	9	TOWNSEND Susannah	
✓	10	GILBERT Susie	
✓	11	RICHARDSON-WALSH Kate	C
8	12	ROBERTSON Sarah	
6	14	LEIGH Joanna	
✓	15	DANSON Alex	
✓	18	ANSLEY Giselle	
✓	19	BRAY Sophie	
✓	20	WEBB Hollie	
✓	24	McCALLIN Shona	
30	25	HEESH Sabrina	GK
✓	26	OWSLEY Lily	
監督		KEEGAN Craig	
UMPIRE		STANDFIELD Caroline(ENG)	

Country	Min	Name	Action	Score
GBR	18	DANSON Alex	PS	0-1
GBR	20	UNSWORTH Laura	PC	0-2
JPN	49	加藤彰子	FG	1-2
GBR	52	RICHARDSON-WALSH Helen	FG	1-3
GBR	55	DANSON Alex	PS	1-4

Country	Min	Name	Action	Score
GBR	56	BRAY Sophie	FG	1-5

(前半)

Q1は、激しい攻防が幕が開けた。幾度となくGBRはボールを前線に入れることができずに下げるパスが目立つ。日本は、自陣からボールをつなぎ攻めこもうと試みるが、23mに差し掛かるところで相手ディフェンダーに潰される。お互いに決定機のないままQ2へ突入。18分レフト側からサークル内へ侵入されゴール前を横切ろうとしたプレーにナイスセーブをみせたGK浅野がファウルの判定を受けてPSとなり日本は先制点を許した。続く20分、PCを奪われ一度は止めたものの、再びPCとなり追加点を許した。

(後半)

Q3に入りGBRの足が止まり始めた。32分相手のパスミスで大塚がカットし、後ろから走りこんできた永井友理へとパスが渡る。これを受けた永井友理はスピードにのったドリブルでサークルへ侵入しシュートするがGKに阻まれる。苦しい展開になったGBRはミスが目立ち始め、なんとか日本の流れを止めようと後ろからスティックを叩いたり、体をぶつけたりと故意の反則が目立つ。その他でもすれ違い様に体をぶつけてきたり、後ろから押すなどの反則を見逃したり、判定基準が一定しないなど、国際試合の笛を吹くには無理な人選だったのではないだろうか。44分相手反則からPCを取得するが入らない。優位に進めながら決定機を得点に結びつけることができない。

もともとQ3途中からGBRの運動量は落ち、前線と中盤との間に大きなスペースができるようになった。そして日本の動きがスムーズになって試合を支配するようになった。Q4、47分相手コートからのFHを中川から素早く逆サイドで待つ阪口へ、そして前線に走りこんできた西村へパスが入りPCを取得。しかし、このチャンスも決めることができない。49分湯田からサークルトップで待つ柴田へボールが入ると、このボールを素早くリバースでゴール前へながし相手DFが弾いたボールを加藤が押し込み待望の1点を挙げた。GBRの、ここからの意図的な故意の反則についての妥当性については疑問が残るものの、その後52分から56分までの5分間で3失点は大きな課題としてのしかかる。これに対して、日本もチャンスがありながら決めることができない決定力の無さが浮き彫りとなった。

従ってこの敗戦は、レフェリーの問題だけに帰結するのではなく、不安定な守備力と決定力の無さが明らかになったと捉えるべきであろう。

日本	3	PC数	2	GBR
----	---	-----	---	-----

